

## ミャンマー民主化運動伴走記 2023年版 ⑩

2023年05月26日 日刊ベリタ <http://www.nikkanberita.com/read.cgi?id=202305261208495>

### ミャンマーの問題は世界の問題！ G7サミットに対してミャンマー民主化への協力を求めるデモ

「ウクライナ色」となり閉幕したG7広島サミットの最終日、東京・銀座では、本国の民主化を求める在日ミャンマー人らによるデモ行進「ミャンマーの問題は世界の問題！G7サミットに対してミャンマー民主化への協力を求めるデモ」が取り組まれた＝写真右。

デモ行進には、約140人の在日ミャンマー人や日本人支援者が集まり、日本政府を含むサミット参加国に対し、「武器購入資金源であるミャンマー国有企業MOGEを制裁してください！」、「一般国民を無差別に空爆しているテロミャンマー軍への資金源を断ってください！」などと声を上げた。

また、先頭を歩いた参加者は、岸田首相がアフリカ歴訪中の記者会見で語った「力による一方的な現状変更の試みは世界のどこでも認められない」との発言を引用した横断幕を掲げ、その横には、「日本政府は法の支配に基づく国際秩序を守り抜くという強い決意を〈ミャンマー〉にも示してください！」といった“メッセージ”が記されていた。

ロシアのウクライナ侵攻により、世界中の関心がウクライナのみに向けられていることについて、主催者の一人は「ミャンマーでは今でも国軍による市民の虐殺が続いており、ミャンマー人たちは助けを求めている。国連や日本政府、そして国際社会はミャンマーを助けてください。ミャンマーのことを忘れないでください。ミャンマーの自由、人権、民主主義回復のために力を貸してください」と訴えた。

なお、ミャンマーでは今月中旬に大型サイクロン「モカ」が上陸。中部ラカイン州を中心に甚大な被害をもたらしている。被災地では通信障害などが発生しており、正確な被害状況を把握するのは極めて困難だ。被災者たちはサイクロンによる二次災害だ



けでなく、国軍による空爆にも注意を払わなければならない厳しい生活を余儀なくされている。今こそ、日本政府を含む国際社会は、積極的な“ミャンマー支援”に舵を切るべきだ。

## 日本アセアンセンターがミャンマー軍評議会に助成金 —————人権団体が批判

ミャンマーの人権団体「ジャスティス・フォー・ミャンマー (JFM)」は 26 日、国際機関日本アセアンセンターが軍評議会 (SAC) に助成金を拠出していたとして批判した。

ミャンマージャパンによると、この助成金は、今年 3 月にネピドーで行われた「国際投資協定の履行に必要な人材育成に関するセミナー」に向けて拠出されたもので、セミナーには SAC 投資・対外経済関係省のカンゾー大臣をはじめ 130 人の政府関係者が

参加した。

日本アセアンセンターは ASEAN 加盟国政府と日本国政府との協定によって 1981 年に設立された国際機関で、各加盟国により任命された 11 人の理事で運営されている。ミャンマーからは SAC 外務省のソーハン駐日大使が代表を務めている。日本の代表は外務省アジア大洋州局南部アジア部長の有馬裕氏。

JFM は、このほか 60 以上の外国政府や国際機関が SAC を支援していることを明らかにした。

## 「日本はミャンマー軍政の戦争犯罪への加担やめて」 —————市民団体が岸田首相に公開書簡

日本は政府開発援助 (ODA) を通じてミャンマー軍評議会 (SAC) の戦争犯罪に加担しないよう、237 の市民団体が岸田文雄首相に公開書簡を送った事が明らかになった。ミャンマーの「Progressive Voice」などのグループは、国連安全保障理事会の加盟国でありミャンマーの主要援助国でもある日本がリーダーシップを発揮することが重要だと指摘した。ミャンマージャパンが報じた。

また、ミャンマーの人権団体「ジャスティス・フォー・ミャンマー (JFM)」は 30 日、独立行政法人国際協力機構 (JICA) による鉄道の高度化プロジェク

トが SAC 主導で進められており、兵士や武器などの輸送を通じて人権侵害に加担し、JICA の支援が SAC のプロパガンダの材料にもなっているとして批判した。

JFM は、日本政府と ODA に関与する企業に対し、ミャンマーで連邦民主主義が確立するまでプロジェクトを直ちに中止するよう求めている。

外交関係者によると、日本政府は昨年 11 月、SAC 側に治安情勢の悪化や急激な円安ドル高などのため、鉄道の高度化プロジェクトの一部中止を含む計画の全面見直しを通告したという。



## ミャンマー支援募金〈ミャンマーを助けてください！〉

### ———当事者の願い（前編）

「ミャンマーを助けてください！」。読者の皆さんは駅前や街頭でこうした声を聞いたことはないだろうか。

2021年2月、ミャンマー国軍は突如、軍事クーデターを強行。クーデターにより実権を握った国軍は、民主化運動のシンボルであるアウンサンスーチー氏を含む多数の民主派幹部を拘束し、クーデターに抵抗する市民に対し厳しい弾圧を続けている。

国軍に抵抗する市民を救うため、在日ミャンマー人たちは全国各地で本国の支援に向けた募金活動を行っている。冒頭で触れた「ミャンマーを助けてください！」とは、こうした募金活動を行う在日ミャンマー人たちの切実な声だ。だが、毎週末の募金活動に参加しているのは、日本で暮らすミャンマー人だけではない。そこには、必ず彼らを支援する日本人支援者の姿がある。今回はそうした募金活動等について、長年、在日ミャンマー人支援に携わる日本人支援者の熊澤新さんにお話を聞くことができた。

以下、熊澤さんのインタビュー全文。

#### 〈募金活動の経緯や目的〉

2021年2月の軍事クーデター以降、在日ミャンマー人たちは母国の苦境を少しでも救おうと、さまざまな活動を行っている。その一つが、主に駅前や街頭で行われる「募金活動」だ。募金活動は、東京、名古屋、京都、大阪など全国各地で取り組まれているが、今回は首都圏における募金活動についてお話ししたい。

ミャンマー国内支援のための募金活動は、2021年3月の大規模な抗議デモ（東京・代々木公園／参加者約5,000人）の時に初めて実施した。この時は、120万円以上の募金が集まったのを覚えている。その後、4月頃からは、東京周辺の在日ミャンマー人グループや若者世代を中心とするグループ等が積極的に募金活動に取り組み始めた。

こうした募金活動で集めた資金については、本国の民主化デモに参加した市民への支援に充てた。具

体的に言うと、CDM＝市民不服従運動の参加者への生活費やカンパ、銃弾やガス弾を防ぐためのシールドやヘルメットの購入、死亡したデモ参加者の家族への見舞金などだ。しかし、それだけの支援では不十分だった。なぜかと言うと、ミャンマーでは国軍の弾圧から逃れようとする避難民が増加の一途をたどっており、北西部ザガイン管区を中心に国内避難民が多数発生している状況だからだ。そのため、募金活動の資金は次第に国内避難民への支援にも充てられるようになった。

#### 〈募金活動の様子〉

募金活動は、都内各所、ターミナル駅や郊外の主要駅で毎週土日の午後に実施している。活動時間は、おおよそ13、14時頃から17、18時頃までの3、4時間程度だ。参加者数はマチマチであり、5、6名の時から、30名以上の時もある。こうした募金活動には、募金活動に特化していないグループが取り組むこともある。そうしたグループは主に「パンフレットグループ」と呼ばれており、ミャンマーの現状について書かれたパンフレットを作成し、通行人に配布するグループである。募金活動グループと、このパンフレットグループが合同で募金活動を実施することもあり、その時はかなりの人数が集まる。

募金活動グループは、メンバー制をとっているところが多く、そのメンバーが中心となって募金活動に取り組んでいるが、もちろんメンバー以外の参加も歓迎される。頻繁に募金活動を手伝っている東京周辺の日本人支援者たちは、多くが特定のグループに所属することなく、複数のグループの募金活動に顔を出している。いわば、「助太刀集団」だ。こういった「助太刀集団」は時折、「本日の〇〇グループの募金活動は参加者が少ないから手伝いに来てください」といった感じで、各地の募金活動に関する情報を共有することもある。

中には、子どもを連れてくる参加者もいて、募金活動中、子どもは周辺で遊んでいる。複数の子ども

が現場にいれば、メンバーが子どもたちの面倒を見ることもある。一種の「保育園」状態で、見ていて微笑ましい。

募金活動を実施する場所は、高田馬場なら手塚治虫の壁画がある西武線のガード下、自由が丘なら東急線正面改札前、吉祥寺なら駅から少し離れた「サンロード」という商店街前、池袋なら西武デパート前、有楽町なら銀座口の丸井前広場である。特に有楽町で募金活動を実施する場合は、周囲に適当な壁がなく、比較的広がったスペースなので、参加者が円になって立ち、他の場所とは少し変わった“円陣スタイル”になる。

募金活動中は、1人から3人くらいが募金箱を持ち、あるいは募金箱を設置し、残りの人がパネルや横断幕を持って募金を呼びかける。パネルは、写真とミャンマーについての短いフレーズが書かれたものが多いが、イラスト中心のものや、文章ばかりのものは、通行人へのアピール効果にちょっと欠けるような気もしている。パネルはちよくちよく作り変えたりするため、プラスチックボードに紙を貼り付けたものが多いが、横断幕は長期間使用できるような布製となっている。それに加え、「ミャンマーを助けてください」と書かれた幟（のぼり）も数種類ある。幟は当初、日本人支援者が使い始めたものだが、予想以上に目立つので効果的だ。

横断幕や幟だけでは物足りないため、通常は一人がメガホンを持ち、ミャンマーの現状や募金活動の趣旨などを訴える。私がメガホンを持つときは、「2021年にミャンマーで軍事クーデターが発生し

たこと」、「今でも国軍による激しい弾圧が継続しており、空爆などによって大量の国内避難民が発生していること」、「避難民が過酷な状況にあること」、「ミャンマー市民が日本人の支援を必要としていること」などを話す。募金活動を始めたばかりの頃は、私も結構、長時間メガホンを持って喋っていたのだが、最近是在日ミャンマー人も活動に慣れてきて、私よりよっぽど喋りが上手いと感じる。また、約2年前に新型コロナに感染した私の喉は今も絶好調とは言えず、いわば「補欠選手」状態だ。メガホンによるアピールは日本語で行われることがほとんどだが、「リトルヤンゴン」と呼ばれる高田馬場だけは、通行人の中にミャンマー人が多くいるため、アピールがミャンマー語混じりになる。メガホンを持たないメンバーは、「皆さまの力でミャンマーを助けてください。よろしくお願いします」などと声を揃えて合いの手を入れる。このうち、「皆さまの力でミャンマーを助けてください」と言うフレーズは、どういうわけか、各グループが頻繁に繰り返す「決まり文句」となっている。

時に、参加者みんなで歌を歌うこともある。ただ、歌といっても、8888 民主化運動の犠牲者を悼んだ「ガバーマチェブ」などといったミャンマー語の歌ばかりのため、私のような日本人は流暢には歌えない。とはいえ、歌を歌うと場の雰囲気は良くなるため、私は気に入っている。中には、ギターを持参する参加者もいて、彼らの本気度が伝わってくる。

このように、私たちは日々、募金活動に精一杯取り組んでいるのだが、決して順風満帆というわけではない。（続く）

2023年05月25日 日刊ベリタ <http://www.nikkanberita.com/read.cgi?id=202305251028434>

## ミャンマー支援募金〈ミャンマーを助けてください！〉

### —————当事者の願い（後編）

前編では、在日ミャンマー人たちによる募金活動の経緯や目的などについて触れてきたが、後編では募金活動に対する世間の反応などについて述べていきたい。

当然のことながら、通行人からの反応はさまざま

だ。非常に稀ではあるのだが、募金活動を実施するメンバーに対して、「国に帰れ!」、「そういうこと（募金活動等）は国に帰ってからやれ!」などと罵声を浴びせてくる過度の妨害や嫌がらせもある。彼らの標的になるのは、私のような日本人ではなく、

若者の在日ミャンマー人だ。我々としても、妨害してくる人たちを無理やり排除する権利は持っていないため、非常にもどかしい。ただ、妨害や嫌がらせをしてくる人たちが、ミャンマー国軍支持者というわけではなく、ただ単に在留外国人に対して反感を持っている人や酔っ払い、という印象が強い。こうした妨害や嫌がらせからミャンマー人を守るためにも、日本人支援者の意義は大きいと認識している。

一方で、募金活動には、ほっこりエピソードも多い。小・中学校に通う子どもたちが、私たちのスピーチをじっと聞き、自分たちの財布から募金してくれることもしばしばある。募金額は数百円程度だが、私たちからすると非常に大きな意味がある。

言うまでもないが、募金活動が妨害されるケースはごく稀で、メンバーに話しかけてくる人のほとんどは私たちの活動を応援してくれている人たちだ。募金してくれる人たちは必ず「頑張ってくださいね」、「応援してます」と温かい声をかけてくれる。

募金活動も時間通りに終わらないことがある。終了予定時間になっても、その日の雰囲気、募金活動を延長することもある。私たち、募金活動支援者の仲間内ではこれを「残業」と呼んでいる。なんとなくの印象なのだが、日中より夕方の方が募金の集まりが良い気がする。だから、「残業」にも意味がある、と言うわけだ。

「本日はミャンマー国内避難民支援の募金活動を行わせていただきました。皆さま、ご協力ありがとうございました。これからもミャンマー支援をよろしくをお願いします」というようなアナウンスを募金活動の最後にするのだが、私はこれを「締め挨拶」と呼んでいる。

締めの挨拶後、雨天や非常に寒い季節などを除けば、その場で集まった募金を数えることが多い。最初の頃は、屋外でお金を数えることに少し抵抗があったが、考えてみればメンバーや参加者全員の前で金額を数える方が、より透明性の担保になると思ったのだ。また、参加者や通行人が募金活動中に、ミャンマー料理やお菓子などを差し入れてくれることがあり、締めの挨拶後に美味しくいただいている。

こうした募金活動は、在日ミャンマー人による大きなイベントがある場合や、年末年始、非常に悪天候の予報があった時などを除けば、ほぼ毎週末、実

施してきた。私自身は、2021年9月に新型コロナに感染して、約2ヶ月間、“休職”してしましたが、募金活動自体は、ミャンマーで軍事クーデターが発生した2021年春から現在も継続中だ。

### 〈日本の皆さんにお願いしたいこと〉

ところが、募金活動で集まる金額も、初期の頃に比べると、かなり減ってきた。ウクライナ情勢の影響もあるのかもしれない。1回の募金額が10万円を下回ることも割とあり、募金活動に参加する人たちも減少した。私のような日本人支援者も一定数いるが、なかなか増えない。現状はそんな感じだ。

ミャンマ情勢を伝えるメディアが減ってきた今、募金活動には支援金を集めることに加えて、ミャンマーの現状を一般の人たちにダイレクトに伝えるという重要な役割がある。さらには、在日ミャンマー人が苦境にある祖国のために頑張っているのだ、という姿をアピールする効果もあると思う。

コロナ禍が終焉に向かうにつれ、ミャンマー本国から多くの留学生等が日本にやってくる。募金活動に携わる私としては、来日するミャンマー人を“仲間”や“友人”として接してもらいたいし、彼らを通じて、ミャンマーで起きていることにもっと関心を持ってもらいたい。これが私の切実な願いだ。

### 〈追記〉

5月14日、大型サイクロン「モカ」がミャンマーに上陸し、中部ラカイン州を中心に甚大な被害をもたらしている。そのため、各募金活動グループは現在、被災者・被災地支援を目的とした募金活動に取り組んでいる。また、被災地では、通信障害などが発生しており、我々としても被害の実情を把握することが難しく、死者数はさらに膨れ上がる恐れがある。駅前等で募金活動を行っている在日ミャンマー人を見かけた際には、何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。

熊澤 新（くまざわ・あらた）

- ・「ミャンマー民主化のためのネットワーク」代表
- ・行政書士（入管・ビザ関係の業務）